

薬用植物園かわらばん

皆さ〜んちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2019年
5月1日
第63号



イチハツ（アヤメ科）

第二圃場で咲いているのが見られます。アヤメ属植物の中で一番最初に咲くことから、一初（いちはつ）と名付けられました。よくあるイチハツの花は淡青色で、濃紫色の斑点と白色の模様があるのですが、その花の色が白いものを牧野富太郎がイチハツの新品種、シロバナイチハツ（写真）として名付けました。しかし現在では両者は統合され、どちらもイチハツが正名となりました。

根茎を原料にした生薬を鳶尾（エンビ）、鳶尾根（エンビコン）、または鳶尾草（エンビソウ）といい、日本の民間薬では吐剤、下剤として、中医学では活血化瘀を目的として利用します。また、葉を剣に見たて、藁葺き屋根の上で栽培すると風雪による災害にあわない、という風習があります。

ドイツアヤメ（アヤメ科）

左と同じく第二圃場で見られます。アヤメ属（*Iris*）植物の園芸種で、標準和名がドイツアヤメ、その園芸品種として、ニオイアヤメ（ニオイイリス）やムラサキイリスがあります。薬用植物園にあるのはムラサキイリスですが、ドイツアヤメの仲間の名称はかなり混乱していて、正確にはわかりません。

ドイツアヤメの根茎を原料にした生薬をイリス根と称し、芳香性健胃薬として内用するほか、粉末を歯磨き粉などの香料にします。その精油（イリス油）は、香料、香水の原料として使います。

今、こんな草木が楽しめます！！